

神代之風



発行：世界遺産 玉置神社
出雲大社玉置教会
発行人：弓場 季彦
奈良県吉野郡十津川村玉置川一番地
TEL 0746-64-0500
FAX 0746-64-0429
http://www.tamaki.jinja.or.jp

宮司私感 (2面)

ファミリー たまき (私の履歴書=4・5面)



夢か現か…

精霊 玉置山に 舞い降りる

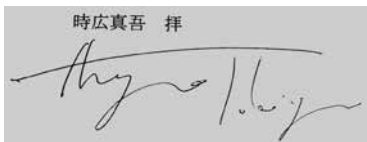
年間参拝者



TOKIHIRO WORLD
伝統と革新の融合

夢幻の舞

時広真吾さん奉納



時広真吾 拝

弥生1日。玉置山に魅せられた精霊か……。何処からともなく現れ、本殿、三柱神社、出雲大社玉置教会、境内、参道等を舞うが如く軽やかに巡る。参拝者の皆さん、一瞬寂として声なし。一陣の風も誘いながら夢幻の舞を演出。時間は止まっていたね。自分の筆力では到底、お伝えいたしかねる夢か現(うつつ)か。暫し、異次元の時広真吾氏の世界でした。



13万人に迫る!

TAMAKI
Tradition
Reformation
Fusion



Tradition & Reformation

Fusion

宮司私感

我が友・時広真吾氏 東京から初見参

幸運は人智を超えて訪れる

幸運は人智を超えて訪れると
か。

平成28年度は、参拝者数1
3万人に迫る。4年余りで約5
倍増。

事務職、神職のスタッフも望
外の充実。

玉置の神々がお呼びしたのだ
ろうか。

事務職で採用された男性は、明晰な頭脳と恐るべき胆力で瞬く間に神社経営の核となつている。やはり事務職で採用された女性。鋭い理解力で担当業務をこなしていたが、ご奉仕数ヶ月で神職を志し、國學院大學神職養成講習会に入り、何と成績優秀者として約50人中3番で修了。近く神職としても新たな一歩を踏み出す。

神職で採用された男性は、手話を勉強中であり、さらに磨きをかけると励んでいる。

さて、現状に感謝しつつも、幸運に委ねることなく、どんな厳しいカードを配られても立ち向かうべし、だ。夏になったら、鳴きながら必ず帰ってくる、あのつばくろさえも、何かを境にぱったり姿を見せなくなることもあるんだぜ、とか。

どんな時代でも、花は咲き、鳥は鳴く。されど、人生はミステリー。瞬時に全てが変わることもある。心しておくこと。何事も可能な限り展開を読み、用意して待つことだ。

人は自らに累(るい)わざわい)が及ばぬ限り、他者に優しくなれるに過ぎないね。

「やすらぎとほのかに文化の薫りがする山上の都」を標榜して4年有半。我が友・時広真吾氏も東京から初見参。夢幻の舞を奉納してくださいました。

いろいろ研究テーマを持って参拝される方々が増えてきている。しっかりと受け止められるようスタッフ一同、この面でも研鑽して参りたい。そうだね、文化と知の発信。それは、力なり。



初午祭

前日3月7日から雪。心配したが、8日初午祭当日は青空がまぶしい快晴。

名物のぜんざいは、多い目に仕込むも瞬く間に完了。

神振行事はバラエティーに富む。巫女舞、民謡、琵琶演奏を奉納。文化発信を念頭に置いての取り組み。

餅まき。お餅は例年、たっぷり用意。袋を広げ、お餅が舞い降りるのを待ち受ける方々も多い。「頭や顔に当たらないように注意してくださいね」と呼びかけながら、投げる。歓声の渦。

当日は約800名の参拝者がお越しくいただきました。責任役員、総代、ボランティアの皆さんのご協力に感謝。



職員も数日來の準備に疲労もかなりのものだったようですが、よく頑張ってくださいました。責任役員、総代、ボランティアの皆さん方、そして職員が一体となっていることを強く感じました。ありがとうございました。

参拝者 約800名
皆さまのご協力に感謝

伝統と革新の融合

初午祭



関川鶴祐さん



岩松香織さん



アユミ ケカマイカマルカコアさん
(フラダンス)



近江富士若さんたち

神振行事

バラエティー豊かに

巫女舞、民謡、琵琶演奏



名カメラマン

優雅・品格

久米舞の舞姿(檀原神宮奉職時)



同志社大学卒業・運輸省大阪航空局(当時)、奈良県知事公室長、奈良テレビ放送代表取締役社長、檀原神宮権禰宜等を経て現職。趣味は日本舞踊・狂言・三味線・ドラム・テニス・ダイビングを試みること及び映画・演劇・歌舞伎・文楽等鑑賞。写真は園遊会参列のもの。

宮司・弓場 季彦



宮内庁 春の園遊会(赤坂御苑) 奈良県知事公室長時代
— 家内と一緒に —

奈良県天理市鎮座の「石上神宮」で生を受け、國學院大學を卒業後、昭和49年に「檀原神宮」に奉職、平成24年に「檀原神宮」を退職後平成25年に「玉置神社」に奉職、現在に至る。

※歴代神職家系に生まれ、神社(神域)の中で生まれ育った事もあり、自らが神職を目指すのに何の疑問も無く受け入れ、資格取得後は「檀原神宮」在職中には特に神社祭式に長く関わり、奈良県神社庁では祭式助教・講師と26年間に亘り指導者として県内神職の指導に当たって来た。

その経験を活かし「玉置神社」では御祭神に相応しい祭祀の構築に専念し完成を見た。又、雅楽では龍笛を25年に亘り、今も指導を続けている。

参与・青山 孝

神職の資格をいただきました

國學院神職養成講習会手記

國學院神職養成講習会は玉置山下山直後、38度の高熱に見舞われ2日間寝込んだ後、病み上がりで開校式に臨むという波乱の幕開けとなりました。

明治15年、明治天皇の下、近代化が進められる風潮において、日本の古き良き神道及び国学の精神を残そうと三つの機関、東京大学 古典講習科、皇典研究所(後の國學院大學)、神宮皇学館(後の皇學館大學)が設立されました。この度、國學院大學において宇宙開闢、天孫降臨から現在まで絶え間なく続く神道の歴史を学ばせていただく貴重な機会に恵まれました。

特に印象深かったことは、教義・教典の無い神道ではあるが、その大きな特色として、自然崇拜、先祖崇拜、人を思う心と教えてくださった先生の言です。いずれも目に見えないことですが、物質主義や資本主義の蔓延する昨今では保つことが大変な感性かもしれません。私たちは神話と先祖の祈りの先に存在し、周りの方々の思いに支えられて存在し得ることに改めて思いを馳せました。

また、学べば学ぶほど、神職や神社の存在に不安定な要素が多いことに気づきます。戦後の体制で存続が厳しい神社もある中、なぜあのように平身低頭できるのか以前はわかりませんでした。平伏したくなる程の大いなる存在がある。そう直覚させられたのはそれから間もなくのことでした。奇縁を得て、神職の資格を得させていただきました。

最後になりましたが、温かく見守りつつも厳しくご指導くださった諸先生方、笑いと祈りは神に通じるということを体現されていた学友の皆様、また、玉置の山で日々支えてくださる皆様に感謝申し上げます。

津田塾大学・英文科卒業。大阪・高津宮で巫女として奉職。その他、様々な職歴を経て、神職資格取得。玉置神社にて事務局長補佐兼秘書、広報担当。語学を専攻したことから、カタカ

ムナや古事記に、舞を舞っていたことからヒーリングに興味を持つ。趣味は読書。

事務局長補佐兼秘書

鶴田 真弓



神職養成講習会の課外活動(明治神宮) 前列右から3番目が鶴田

自己紹介

ファミリー たまき

Family TAMAKI

—平成29年4月1日現在—

私の一枚

a Photograph

庭先から眺めると折り重なる山々の一番遠くにいつも玉置山が見えていました。壁のように連なる山並の向こう側に行くことばかり夢見ていたはずが、京都大学卒業後、縁あって玉置神社で奉職することになりました。これを玉置に呼ばれたと言うのでしょうか。

事務局長兼秘書

西田 直久



思い出のスウェーデン



風に抱かれて
畑仕事

青春時代

学生時代は国際文化に興味を持ち、大阪大学の在学中にスウェーデンで留学を経験した中で日本文化についてより深く学びたいと思ううちに、神道についても学び始めました。まだまだ未熟な身ですが、神社のお役に立てますよう今後も学び続けていく所存です。どうぞ宜しくお願い致します。

権禰宜・弓場 麻妃

10代から五感を超えた幽冥界に興味があり、23歳から勉学・修行の研鑽を積む。二松学舎大学・國學院大学卒業後、東京の神社で奉職。3年前から山の中のまた山にある当神社に奉職しているが、未だに随煩惱。浮き世離れたキャラクターで周囲から親しまれている。

権禰宜・鈴木 清建



祭儀担当の権禰宜・西田秀行です。大阪の神社で五年半奉仕した後、この聖地に魅せられ現在に至ります。

一人でも多くの方に玉置の魅力を伝えたくて、ただいま手話を勉強中です。

神社で見かけたら是非お声掛けください。



大好きな

故郷十津川のために

権禰宜をさせていただいています深瀬浩司です。普段は義兄が営む土木会社で25年働いています。5年前に神職となり、ご縁があり4年間仕事を続けながら玉置神社でご奉仕させていただきます。神職としてはまだまだ経験は浅いですが、どうぞよろしくお願い致します。

権禰宜・深瀬 浩司

大阪府立淀川工科高校卒業。全日本吹奏楽コンクール、全日本マーチングコンテスト出場を経験。関西外国語大学短期大学部卒業。

巫女・作間 慈



伝統 革新 融合

和太鼓祈りの奉納



佐藤健作氏は国際的な舞台でも活躍する和太鼓奏者。今回は日本中、世界中の聖地を巡る「祈りの奉納ツアー」の一環として演奏を奉納していただきました。

締太鼓の小気味よいリズムが冷気を切り裂き、重量60キロという大太鼓の大音量が山上の静寂を揺るがします。ようやく日差しが春めいてきたとはいえまだまだ厳寒の2月下旬、境内に響き渡る大音量は、眠っている春を目覚めさせてくれたでしょう。

(西田直久)

国際的に活躍 佐藤健作さん



神の棲む社

聖地・玉置神社 映像コンテンツ制作スタート

玉置神社の四季折々の風景、祭典等を収録中であり、一部をホームページでご紹介しております。

新たな発見があるかも知れませんね。是非ご覧ください。

<http://www.tamakijinja.or.jp/>



奈良フィルハーモニー管弦楽団 第40回定期演奏会

忘れじの友へ

松下寛子さんのピアノ演奏、これからも聴きたい。今回の演奏は、異なる世界へ行ったみたいで衝撃を受けた。まだまだその独自性を深めてゆく予感。びっくりさせていただきたい。

芸の世界で追っかけもどき試みてきているのは、バレエでお二人、歌舞伎でお二人、文楽でお二人、幸福ですね。指揮者の方、団員の皆さん、それぞれに魅力一杯でした。奈良フィルよ、いつまでもその灯を輝かせ続けてください。奈良にこのような管弦楽団があるのを誇りに思いますよ。

全良雄・前団長さん、あなたの蒔(ま)いた種はさらに光を増していくよ。ありがとう、忘れじの友！



紀元祭

連日の降雪により一面真っ白となっている境内に、よく晴れた空の美しい青色とのコントラストが何とも清々しく、凜とした気を感じさせる空気の中、紀元祭が執り行われました。



神々しき 龍笛の音 (諸岡神職)

肅々とした中にも穏やかで和やかな雰囲気 の祭典となり、最後の宮司挨拶では、神日本磐余彦尊をお奉りする当社としての紀元祭に対する熱い思いが語られました。

(諸岡源司)

Tradition Reformation Fusion

出雲大社教第五教区庁新年総会



出雲大社教第五教区庁新年総会が1月31日神戸分祠に於いて開催。正式参拝に続いて総会に入り、教区庁長等の挨拶の後、多くの時間を割いて出雲大社教規改訂の説明がありました。

総会終了後は中華料理店に場所を移しての直会です。

出雲大社教の各教会は代を嗣いで交流があるとのことで、随所で話の花が咲き、笑い声此起彼伏る和やかで家庭的な時間を過ごすことができました。

(西田直久)

節分祭・大日堂社転換祭

2月3日、本殿では「福は内、鬼は外」の掛け声と共に節分祭が、又、大日堂社では大日如来尊像が金剛界から胎藏界に換わられる転換祭が執り行われました。

「節分」、「転換」の字の如く厳冬のなかにも春の訪れを感じさせる祭典でありました。

来年も皆様のご参列をお待ちしております。

(西田秀行)

福は内イ～

鬼は外オ～



春の訪れ

境内地に鎮座する出雲大社玉置教会で3月20日、春季祖霊祭が斎行された。

この日を一搬には彼岸というが、それは神道の日願から来ているとも言われている。また、社日とも言われる。亡き方々の御霊を高天原に昇天するべく、神職一同、白の浄衣に

出雲大社玉置教会 春季祖霊祭

整え霊璽(位牌にあたるもの)に向かい感謝と鎮めの作法と祭詞を捧げた。

更に、玉置山に鎮まる松平墓地と奥津城(墓にあたるもの)にも神職が供物を供え祭詞を奏上した。

(鈴木清建)

祈年祭 (としごひのまつり)

年の首(はじめ)にあたり年穀(としがら)の豊穰を祈ると共に、天皇の御安泰を祈り奉り、併せて国家の安泰を祈請(きせい)する祭儀である祈年祭が2月17日、斎行された。

一週間余り前から降り続く雪が積もる参道の足下に気を配りながら参進する。

太古から連綿と受けつがれている、この祭りを修め、爽涼の時を味わう。

(鈴木清建)

奈良県神道青年会御一行 正式参拝

Special Thanks



笛吹神社(ふえふきじんじゃ)神職
 正式には「葛木坐火雷神社」(葛城市)
 弓場宮司が橿原神宮で神職研修時代、
 厳しく、優しく、ご指導を受けました。



独い言

傷だらけのライオン

そろそろ私も遺言を書かねばならない、なんて思ったりする。失敗、挫折はあったが、いい人生だった、とつくづく思う。

宮司は私のように弱みは決して見せない。だが、寂しがり屋である。戦い続けたこれまでだった。そしてほぼ敗れたことはなかった。手負いのライオン、と形容しよう。孤高と言ってもよいか。

私は感じていた。内なる家族とは別に、外なる家族を求めている、と。過去の神社職員には、たびたび裏切られてきたが、今、「ファミリーたまき」を見出しはたす。やっとだ。「信頼できる人材」が集まったように思う。私はただ願う。・・・どうぞ、裏切つたりしないでくださいーと。

せっかちで短気な宮司だが、本当は、大変寂しがり屋なんです・・・。

元読売新聞社会部記者 水野成之

奈良県神道青年会御一行14名が3月27日、正式参拝のため来社された。

標高千メートル以上に鎮座する社。当日は、温暖な気候、山上のため太陽が近く、光が神々しく眩しい。

一同、スーツに身を修め、一列に並び参進する。

御殿の中に着座すると、太鼓の音、祝詞が境内と山々に響き渡る。爽やかさの中で、代表者の玉串が捧げられる。

参拝後、重要文化財である社務所の襖絵を拝観された。

毎度のことですが、演奏や舞など奉納される方、並びに、信仰深い方々が来社されると、必ずと言っていても良い程、穏やかで素晴らしい天候になる。不思議。

ここ玉置山は、神の棲む杜とも言われ、神道の精霊信仰を如実に体感できる貴重な場所。皆様も是非参拝にいらして、神々を感じてください。

奈良県神道青年会御一行の方々、参拝誠に有り難うございました。

(鈴木清建)



前田武志さん 叙勲を祝う会

前田武志さんの衆議院・参議院での政治活動は30数年間に及ぶ。在任中は国土交通大臣をはじめ参議院予算委員長等を歴任。

これらの功績に対し、天皇陛下より旭日大綬章を親授賜り、フランス国よりレジオン・ドヌール勲章(フランス最高勲章)を受章。

これを記念して叙勲を祝う会が3月31日、シエラトン都ホテル大阪で開催された。

前田武志さんは十津川のご出身。折に触れ十津川に眠る先祖の墓参を欠かさない。国土交通大臣を拝命した直後、台風12号が十津川村を含む紀伊半島を直撃し、未曾有の豪雨災害の発生に担当大臣として救援・復旧の陣頭指揮に当たられた。運命を感じますね。



5月13日(土) 玉石社例祭 5月14日(日) 出雲大社玉置教会例祭
 6月30日(金) 夏越大祓 8月8日(火) 大日堂大祭